豊 公 園 再 整 備 基 本 計 画

平成 29 年 3 月

長　　浜　　市

豊公園再整備基本計画

目　次

１　現況把握 …… 1
（１）地域の概況 …… 1
（２）豊公園の概況 …… 5
（３）市の上位計画・関連計画 …… 8
（４）法的制約 …… 9
（５）利用状況 …… 10
（６）総合公園の利用者層と利用者ニーズ（参考） …… 14

２　敷地分析 …… 15
（１）豊公園の位置付け・役割 …… 15
（２）豊公園の現状における問題点 …… 17

３　基本方針 …… 21
（１）基本方針の設定 …… 21

４　動線・ゾーニング …… 23
（１）動線計画 …… 23
（２）ゾーニング計画 …… 24
（３）動線・ゾーニング計画図 …… 25

５　基本計画 …… 27
（１）施設計画 …… 27
（２）ゾーン別施設計画 …… 34
（３）豊公園再整備基本計画図 …… 52
（４）工事計画 …… 54
（５）管理運営計画 …… 56
（６）今後の課題 …… 60

添付資料

資料１　豊公園市整備基本計画 検討委員会開催要領 …… 62
資料２　豊公園市整備基本計画 検討委員名簿 …… 63
資料３　豊公園市整備基本計画 策定経緯 …… 64
資料４　トイレ規模の算定 …… 65

1　現況把握

（1）地域の概況

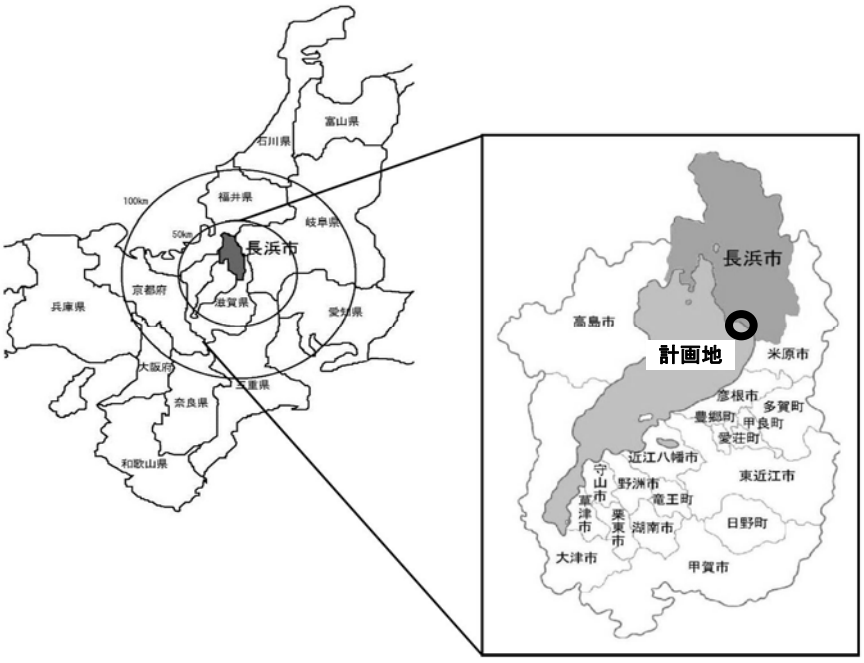
■位置・地勢

長浜市は琵琶湖の北東に位置し、総面積は 681.02km^2 （うち陸地 539.63km^2 ）で、北は福井県、東は岐阜県に接しています。伊吹山系などの山々と、ラムサール条約の登録湿地でもある琵琶湖に面し、中央には、湖北平野が広がり、琵琶湖岸には多くの水鳥が集うなど優れた自然景観を有しています。

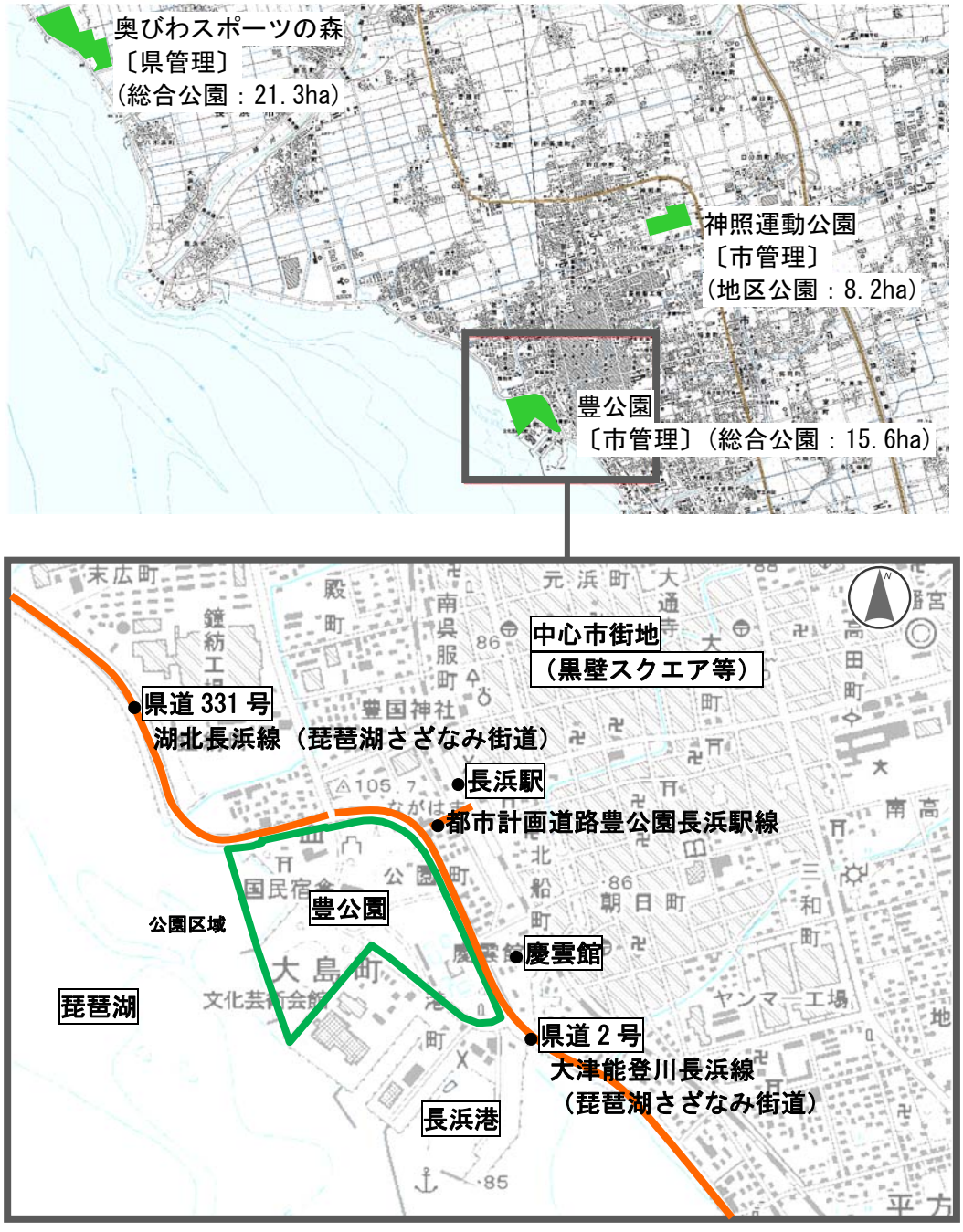
気候は、日本海型気候に属しており、春から秋にかけては穏やかで過ごしやすい日が多い一方、冬季は日本海からの季節風が吹き込み、雪による降水量が多いという特徴があります。

計画地である豊公園（ほうこうえん）は、長浜市の南端付近の琵琶湖沿いにあり、長浜市域の中で最も人口が集積している長浜駅周辺の中心市街地西端に位置しています。近くには黒壁スクエアや慶雲館などを中心とする観光地があり、長浜・北びわ湖大花火大会の会場や竹生島観光の起点となる長浜港にも隣接しています。

最寄りの鉄道駅である長浜駅は、北陸本線を経て米原駅において、東海道本線や東海道新幹線とも結ばれています。また、近隣の幹線道路として、琵琶湖さざなみ街道（主要地方道大津能登川長浜線及び県道湖北長浜線）が隣接して通過しており、市域を貫く国道 8 号や北陸自動車道によって、京阪神・名古屋・北陸の各方面ともつながっています。



位置図（広域）


奥びわスポーツの森
〔県管理〕
（総合公園：21.3ha）
神照運動公園
〔市管理〕
（地区公園：8.2ha）
豊公園
〔市管理〕（総合公園：15.6ha）
中心市街地
（黒壁スクエア等）
県道 331 号
湖北長浜線（琵琶湖さざなみ街道）
長浜駅
都市計画道路豊公園長浜駅線
豊公園
公園区域
慶雲館
琵琶湖
県道 2 号
大津能登川長浜線
（琵琶湖さざなみ街道）
長浜港

豊公園の位置図（周辺）

■土地利用

長浜市域 68,102ha のうち、29.2%の 19,854.6ha が都市計画区域に指定されており、そのうち 1,317.9ha が市街化区域（市域の 1.9%）、非線引き都市計画区域も含め 1,679.2ha（同 2.5%）が用途地域に指定されています。

計画地である豊公園は、市街化区域に立地しています。

■人口・世帯数

豊公園は総合公園であり、都市住民全般の利用が想定されています。

長浜市の人口は、118,193 人（平成 27 年）であり、平成 22 年までの増加傾向から減少に転じています。長浜市の世帯数は、41,788 世帯（平成 27 年）であり、平成 22 年までの増加傾向から減少に転じています。

長浜市の年齢別の人口について、平成 27 年の年齢 3 区分別人口割合によると、15～64 歳（生産年齢人口）が 58.2%、65 歳以上（高齢者人口）が 26.4%、15 歳未満（年少人口）が 13.6%となっています。

平成 7 年から平成 27 年までの変化を見ると、15～64 歳が 6.1%(9,974 人)の減少、65 歳以上が 8.5%(9,311 人)の増加、15 歳未満が 4.1%(5,576 人)の減少と、少子高齢化が進んでいます。

図　人口と世帯の推移

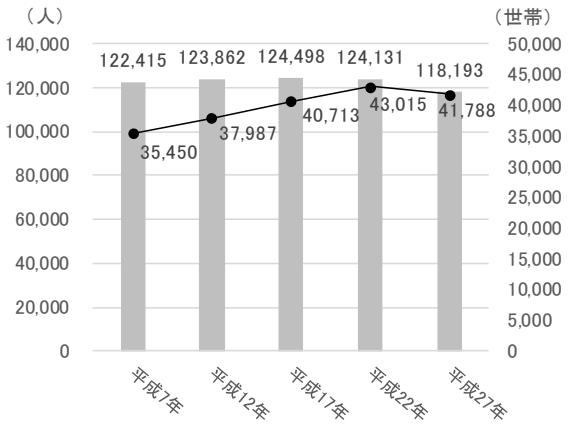
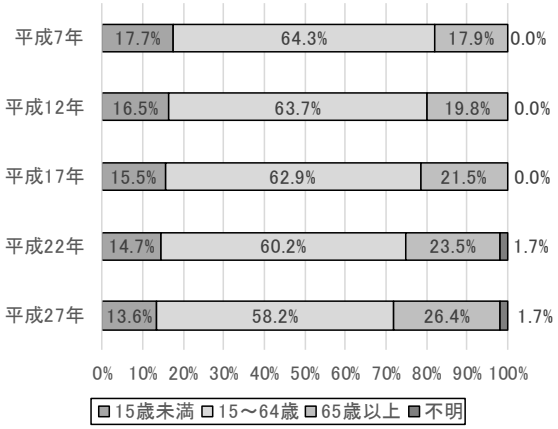


図　年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査（平成 27 年）

■交通アクセス

豊公園は、琵琶湖さざなみ街道と呼ばれる主要地方道大津能登川長浜線（県道 2 号）と一般県道湖北長浜線（県道 331 号）に接しており、車で来園される方は、公園南東部の駐車場を利用されています。

最寄り駅は JR 北陸本線の長浜駅で、駅の西口と公園北東部の出入口までは、約 100m と近接しており、平成 27 年に拡幅された都市計画道路の豊公園長浜駅線で結ばれています。

なお、長浜駅周辺では、現在、市街地再開発事業が行われています。

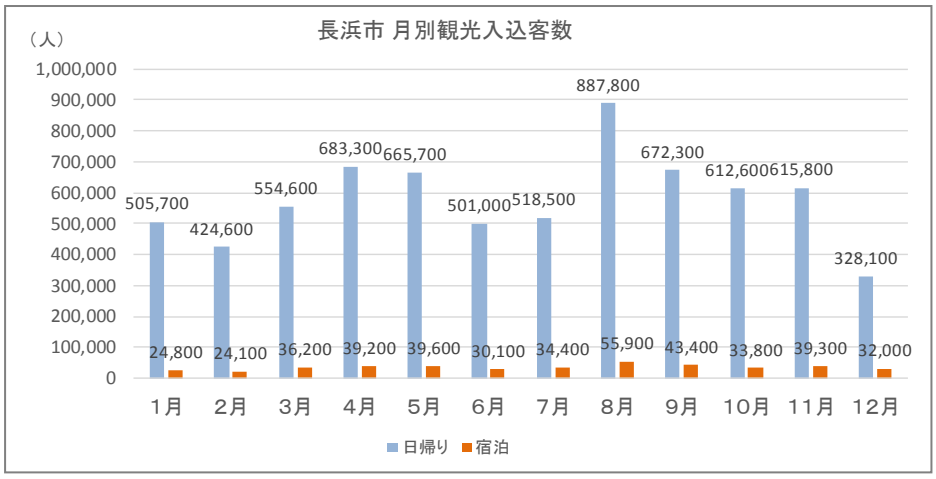
豊公園から見た長浜駅西口周辺

■中心市街地

長浜市の中心市街地は、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）によって城下町として築かれ、歴史的建造物や伝統文化の薫りがただよう町並みが残されています。当地区では市民参加のまちづくりが展開されており、平成元年に黒壁ガラス館がオープンしたことをきっかけに、多くの観光客が訪れるようになりました。現在では県内有数の観光地となっています。

■観光

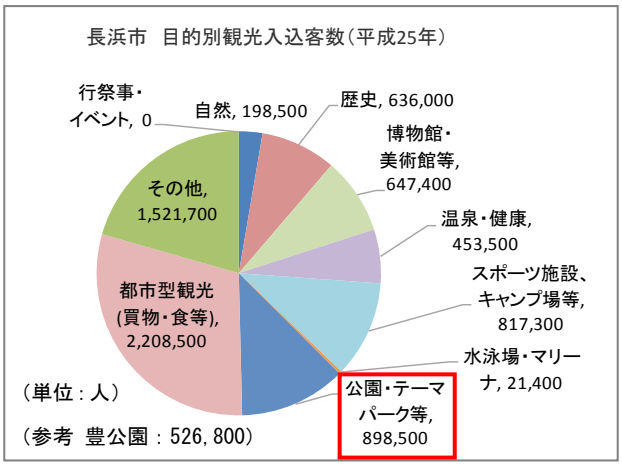
月別観光入込客数（平成 26 年）を見ると、長浜市には、1 年を通じて観光客が訪れており、春（4～5 月）と夏（8 月）には多くなるものの、冬の 12 月には少なくなるという傾向があります。また、日帰り・宿泊の別で見ると、平成 26 年の観光客数 7,402,800 人のうち、宿泊は 432,800 人と全体の 6.2%に留まっており、京阪神や名古屋、北陸からの交通利便性に恵まれていることもあって、日帰り観光が主体となっていることがわかります。



資料：平成 26 年滋賀県観光入込客統計調査書

長浜市には、おおむね年間 700 万人から 1,000 万人の観光客が訪れていますが、目的別に見ると、長浜市の中心市街地を中心とする「都市型観光」の占める割合が最も多くなっており、そのほか、「公園・テーマパーク等」「スポーツ施設、キャンプ場等」「博物館・美術館等」「歴史」「温泉・健康」を目的とする観光客も多くなっています。

豊公園は、「公園・テーマパーク等」に該当し、その中でも多くの割合を占めています。



資料：平成 26 年滋賀県観光入込客統計調査書

（２）豊公園の概況

豊公園は、江戸時代前期に廃城となった長浜城跡に明治 43 年に開設された公園で、長浜城主であった豊太閤・豊臣秀吉にちなんで「豊公園」と名付けられました。

公園内には、長浜城歴史博物館をはじめ、噴水、児童遊園、テニスコートなどの施設があります。サクラの名所でもあり、春にはソメイヨシノを中心に約 600 本のサクラが咲き誇り、季節ごとにウメやフジ、そして花壇の花々が咲き、冬にはマツの雪吊りなど、四季折々の景観を楽しむことができます。また、姉妹都市であるアウグスブルグ市から贈られたバラを園内で育てています。豊公園には、次のような特徴があります。

- **都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的として設置される総合公園（※）です。**
- **中心市街地と琵琶湖に面しており、琵琶湖の美しい景観に恵まれ、市民や観光客が訪れています。**
- **豊公園は、日本さくら名所 100 選、日本の夕陽百選、日本の歴史公園 100 選に選定されています。**
- **市民に愛され、多くの寄付を受けており、また、姉妹都市・友好都市との交流の場となるなど市政との結びつきも強い公園です。**

※総合公園
都市公園法施行令第２条第１項第４号に規定される都市公園の一種。（公園面積 10.0ha～50.0ha を標準とする。）

駐車場には、乗用車 475 台、バス 11 台分の駐車区画を整備する予定

豊公園平面図

■公園整備の経過

豊公園周辺の航空写真（約 30 年前）

明治 43 年に長浜城跡地に公園を開設し、昭和 29 年には都市計画公園に計画決定されました。公園開設時より、サクラの植樹、公園区域の拡大、各種公園施設の整備などを進めています。

昭和 56 年には第 36 回国民体育大会（びわこ国体）の会場の一つとしても使われ、昭和 58 年には天守を模した長浜城歴史博物館を設置しています。

近年では、平成 26 年から第 1 期再整備工事を開始して、平成 27 年にテニスコートの 16 面化を行いました。

明治 43 年	長浜城跡地に公園開設
大正 3 年	サクラ 500 本植樹
昭和 22 年	サクラ 200 本植樹
昭和 29 年	都市計画公園として計画決定（13ha）
昭和 37 年	テニスコートを 6 面整備
昭和 42 年	国民宿舎豊公荘完成
昭和 44 年	豊公園湖岸埋め立て工事着工、都市公園の区域を変更（15.6ha）
昭和 51 年	交通公園の開園
昭和 52 年	市民プール開設、テニスコート 10 面化
昭和 54 年	市民プール全面開業
昭和 55 年	テニスコート 12 面化 豊公園湖岸地区土地区画整理事業の完成
昭和 56 年	第 36 回国民体育大会（ソフトテニス会場、水球会場）
昭和 58 年	長浜城歴史博物館の開館（公園敷地全体の供用開始）
平成 10 年	国民宿舎豊公荘新装完成
平成 24 年	豊公園長寿命化計画策定
平成 25 年	市民プール閉鎖（プールを神照運動公園に移設）
平成 26 年	豊公園第 1 期再整備工事開始
平成 27 年	テニスコート 16 面化
平成 28 年	長浜城歴史博物館リニューアル

■自然・景観

豊公園はサクラの名所であるほか、琵琶湖の中でも東西の幅が広く対岸までの距離が長いため、視界が広がり雄大な景色が望めます。このような自然と景観に恵まれている豊公園は、「日本さくら名所 100 選」〔平成 2 年選定〕（公益財団法人日本さくらの会）、「日本の夕陽百選」〔平成 12 年選定〕（NPO 法人日本列島夕陽と朝日の郷づくり協会）に選定されています。

長浜城歴史博物館とサクラ

琵琶湖と夕陽

資料：長浜・米原・奥びわ湖観光サイト

■歴史・文化

豊公園は長浜城の跡地に立地しています。

長浜城は琵琶湖岸にあったとされる城で、南北朝時代に創築された今浜城の跡地に、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）が築城したものです。秀吉は、今浜の地名を長浜と改め、城下町を整備して、数年間、居城しています。その後、柴田勝豊、山内一豊などが城主となり、元和元年（1615 年）には廃城となりました。長浜城の建造物や石垣の多くは彦根城に移されたといわれており、その跡地である豊公園には、当時使われたとされる井戸の遺構（太閤井戸）が残されています。

なお、豊公園は、「日本の歴史公園 100 選」〔平成 19 年選定〕（都市公園法施行 50 周年事業実行委員会）にも選ばれています。

長浜城復元図

■利用者数

豊公園の利用者数（入込客数）は、年間約 50～60 万人となっています。ただし、平成 23 年、平成 26 年は長浜を舞台とした大河ドラマが放映された影響もあり、突出して多くなっています。（平成 23 年「江～姫たちの戦国～」放映時に 103 万人、平成 26 年「軍師官兵衛」放映時に 83 万人）

	年間入込客数(人)
平成22年	552,800
平成23年	1,025,300
平成24年	527,600
平成25年	526,800
平成26年	830,200

※長浜城歴史博物館の年間入込客数から推計

（３）市の上位計画・関連計画

■豊公園に関する内容・位置付け

豊公園については、次のような上位・関連計画があります。これら上位・関連計画における位置付けを踏まえて、豊公園の再整備基本計画を検討する必要があります。

区分	計画名	策定年等	豊公園に関する内容
上位計画	長浜市基本構想	H29 改定	・長浜市のめざすまちの姿である「新たな感性を生かしみんなで未来を創るまち 長浜」を念頭に、市民が親しめる公園として検討します。
	長浜市総合計画基本計画	H29 策定	・基本施策となる中心市街地の活性化に、豊公園が関連しています。 ・休養・休息や様々な余暇活動、スポーツ・運動、地域活動等での利用を通して、幅広い市民から利用される憩いとふれあいの場とされています。
	長浜市都市計画 マスタープラン	H28 改定	・広域レクリエーション拠点に位置付けられており、市民の多様なスポーツ･レクリエーション活動を支える拠点として、適切な維持管理と整備を図ることになっています。 ・みどりの広域拠点として位置付けられており、レクリエーションの場や災害時の避難場所だけでなく、貴重なオープンスペースとして整備･活用することになっています。
	長浜市 みどりの基本計画	H23 改定	・長浜市のシンボル的な公園と位置付けられています。 ・みどりの広域拠点として位置付けられており、市民や観光客に親しまれる公園とされています。 ・歴史風土と一体となったみどりの景観を保全することになっています。 ・公園施設の充実に向けて、樹木の感染病対策や周辺の環境に配慮した維持管理と公園のみどりの質の向上を図ること、市民ニーズを踏まえ、周辺と調和する緑化や施設の再整備に取り組むことになっています。
関連計画	長浜市 景観まちづくり計画	H26 改定	・琵琶湖沿岸景観形成重点区域に含まれており、琵琶湖と調和した良好な景観づくりに取り組み、水に緑が映える美しい自然景観の保全、創造に努める区域となっています。
	第２期 長浜市中心市街地 活性化基本計画	H27 改定	・豊公園長寿命化事業によって公園機能を再編整備することで、利用者の増加を図りつつ、商業観光ゾーンへの回遊性を高めることになっています。 ・豊公園内便益施設整備事業や、長浜城歴史博物館魅力強化事業の対象施設が立地する場所にあたり、これらの施設によって、賑わいを創出することになっています。
	長浜市 地域防災計画	H26 策定	・自由広場が、広域避難場所と臨時ヘリポートに位置付けられています。
	豊公園長寿命化計画	H24 策定	・公園施設について計画的に維持修繕又は更新を図ることになっています。

■長浜城歴史博物館に関する内容・位置付け

長浜城歴史博物館は、戦国時代の城郭を模して昭和 58 年に整備された鉄筋コンクリート造の建築物です。最上階から湖北を一望することができ、公園施設としては展望台・休憩所に位置付けされており、内部は歴史博物館として運営されています。

平成 28 年にリニューアルが行われました。

■国民宿舎豊公荘に関する内容・位置付け

国民宿舎豊公荘は、豊公園の中に長浜市が設置した宿泊施設です。現在は、長浜旅館飲食協同組合が管理を行っています。

近年老朽化が顕著となっており、第 2 期長浜市中心市街地活性化基本計画では、民間事業者を実施主体として、「老朽化した国民宿舎施設を更新し、売店、飲食店や温泉を併設した便益施設として整備することで、市民の来訪機会を増加させ、新たな賑わいを創出する」こととされています。

（４）法的制約

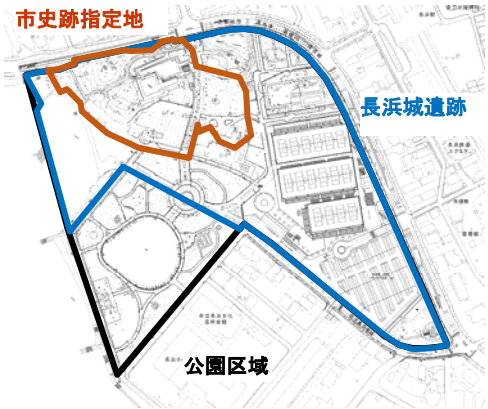
■都市計画等に関する区域指定

計画対象である豊公園は、都市公園（総合公園）であり、「彦根長浜都市計画区域」に位置する都市計画公園です。豊公園の区域の陸地の部分は、市街化区域にあたり、第一種住居地域に指定されています。また、豊公園は、全域が風致地区に指定されています。

その他、湖の部分については、自然公園法に基づき、琵琶湖国定公園の普通地域に指定されています。

■文化財保護に関する区域指定

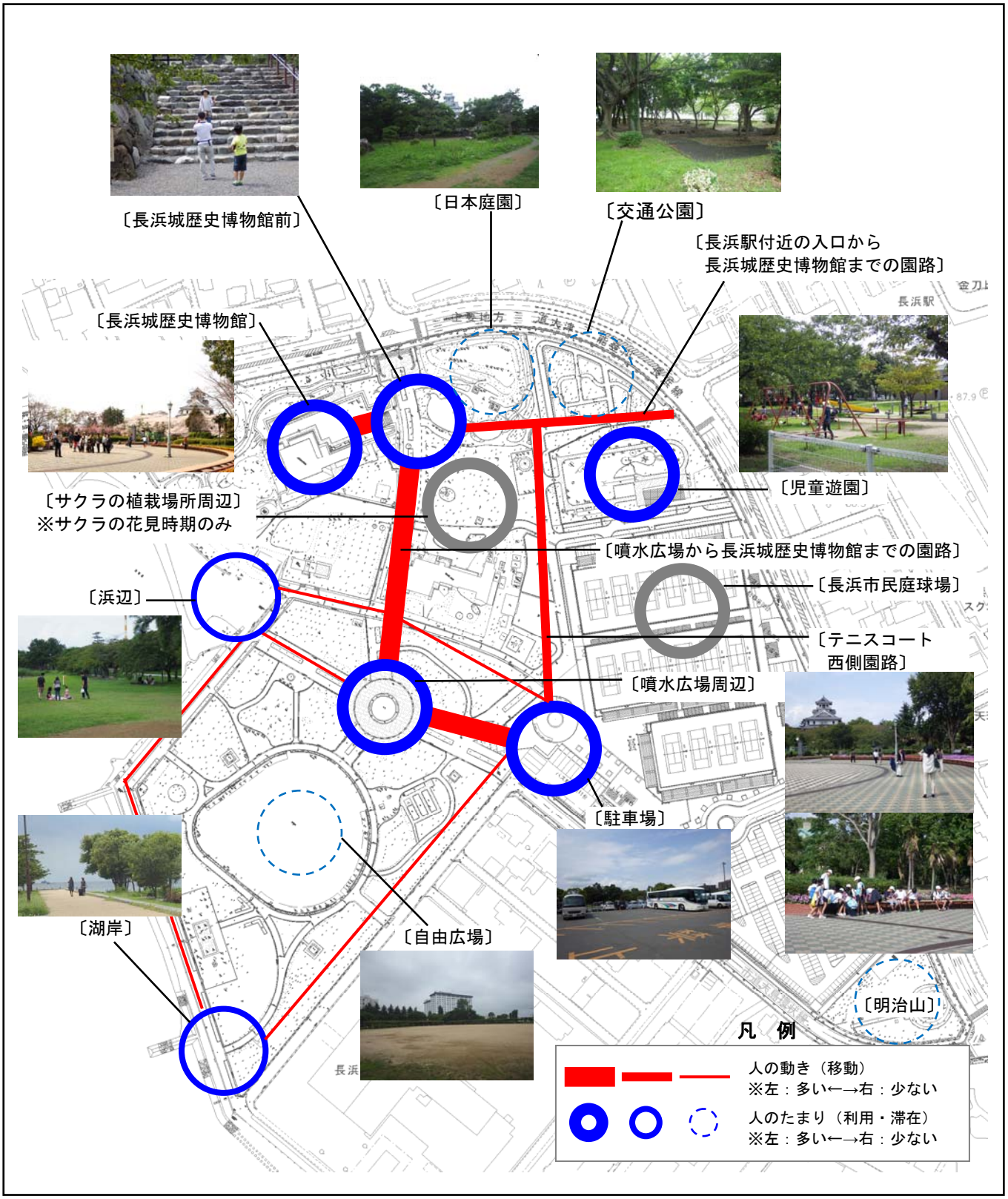
豊公園の一部は、周知の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）である長浜城遺跡に含まれており、特に長浜城歴史博物館周辺は史跡長浜城跡の市指定地になっています。



（５）利用状況

■公園利用の状況

豊公園の利用状況は以下の通りです。



豊公園の利用

■日常利用

豊公園の利用のうち、普段の利用状況を以下に整理します。

場所	利用状況	利用人数
駐車場	・多くの観光客が車で来園されており、大型バスやマイクロバスでの利用も多くあります。 ・平日の昼間でも、乗用車の駐車区画はおおむね利用されています。 ・公園利用者以外の駐車車両が、平日で 50 台程度あります。	◎
長浜城歴史博物館前	・多くの方が、長浜城歴史博物館を背景に写真を撮影したり、長浜城や説明板（案内板、解説板）を眺めたりしています。	◎
噴水広場から長浜城歴史博物館までの園路	・駐車場から長浜城歴史博物館に向かって、団体客をはじめとして多くの方が通行しています。	◎
噴水広場周辺	・駐車場から長浜城歴史博物館に向かって、団体客をはじめ多くの方が通行しています。 ・視界が開けており、多くの方が、長浜城歴史博物館を背景に記念写真を撮影したり、噴水・花壇を鑑賞したりしています。 ・団体の集合場所として利用されています。 ・子どもや親子連れでの利用も多いです。	◎
児童遊園	・親子連れによる遊具等の利用が多いです。 ・多くの方が、徒歩や自転車で訪れています。	◎
長浜駅付近の入口から長浜城歴史博物館までの園路	・長浜駅から長浜城歴史博物館に向かって、少人数のグループを中心に観光客等が通行しています。	○
テニスコート西側園路	・自転車を含めて、南北方向に移動される方が通行しています。	○
浜辺	・景色を眺めながら休息している人がいます。 ・弁当を持参されている家族連れ等もいます。	△
交通公園・日本庭園	・あまり利用している方がいません。	×
自由広場	・複数の団体の方がグラウンドゴルフをされています。 ・夏季や雪が降る冬季にはあまり利用がありません。	×
明治山	・慰霊碑周辺は静穏で、あまり利用している方がいません。	×

利用人数
左：多い←→右：少ない
◎　○　△　×

■行事・イベント時等の利用

豊公園の利用のうち、行事・イベント時等の利用状況について以下に整理します。

場所	利用状況	利用の多寡
サクラの植栽場所周辺	・春のサクラの開花時期には、多くの花見客が訪れます。	◎
噴水広場と自由広場の周辺	・長浜市、滋賀県、民間が主催する各種イベント会場として、利用されています。 ・学校教育の一環として、県内小学校 5 年生を対象とした「びわ湖フローティングスクール」では、寄港地（長浜港）に隣接する豊公園をタウンウォークラリーのスタート・ゴール地点として利用されています。 ・現在は、イベント時の臨時駐車場として自由広場が利用されています。	◎
樹木の植栽場所周辺	・子どもたちに屋外での遊びを体験させる市民団体の活動の場として利用されていました。	○
湖岸・浜辺等	・湖岸に漂着するゴミや藻の除去など、市民による清掃ボランティアが行われており、市民活動や市民協働を実践する場となっています。	○
長浜市民庭球場（テニスコート）	・テニスの大会や練習試合が行われる日には、多くの方が利用されています。	◎

利用人数
左：多い←→右：少ない
◎　○　△　×

■利用者行動

上述の内容より、豊公園における利用者行動を下にまとめます。

ただし、今後、豊公園第 1 期再整備事業と長浜駅周辺の市街地再開発事業に伴って、豊公園の利用者行動は変化していく可能性があります。

豊公園における利用者行動（まとめ）

【人の動き：概要】

- 駐車場から噴水広場周辺を通り、長浜城歴史博物館に向かう人の動きが特に多く、団体で移動される方も多くいます。
- 長浜駅から長浜城歴史博物館に向かう人は、駐車場から長浜城歴史博物館に向かう人の半数以下であり、多くの場合、少人数のグループで移動されています。
- テニスコート西側の南北の園路は、全面舗装されており、自転車も含め、途中で足を止めることなく通過する人が多く見られます。
- 東西方向の園路の役割が類似しており、人の流れが分散しています。

【人の溜まり：概要】

- 噴水広場にとどまる人が多く、記念写真を撮影する人もいます。
- 児童遊園は親子連れでの利用が多いです。
- 少数ですが、浜辺など公園の琵琶湖岸や管理事務所付近を利用する人がいます。
- 自由広場は、面積は大きいですが利用する人数は多くありません。
- 日本庭園、交通公園の利用はあまり見られません。
- サクラの植栽場所周辺は、4 月の開花時期に多くの花見客で賑わいます。
- 長浜市民庭球場は、大会や試合がある日に選手や観客で賑わいます。

（６）総合公園の利用者層と利用者ニーズ（参考）

豊公園は総合公園に該当します。

総合公園の一般的な傾向は、全国調査（「平成 26 年度 都市公園利用実態調査」（国土交通省））によると、次の結果となっています。

■総合公園の利用者層（参考）

設問	回答の概要
利用者の構成	・利用者のおおむね 8 割（休日 76.8% 平日 83.5%）が大人（19 歳～64 歳）と高齢者（65 歳以上）です。 ・利用者の 1～2 割（休日 17.8% 平日 10.7%）が、一般的に遊具等を使用するとされる小学校上級生以下の子どもです。
グループ構成	・一人、家族、知人・友人、夫婦の順であり、この 4 グループを合わせると回答数のおおむね 9 割（88.6%）を占めています。

（実態調査）

■総合公園に対する利用者ニーズ（参考）

設問	回答の概要
公園を選択した理由	・公園を選択した理由は、①近い（42.3%）、②緑が多い（33.8%）、③広い（30.7%）、④きれい（23.7%）、⑤費用がかからない（22.2%） の順となっています。
活動内容	・公園での活動内容は、①散歩をした（42.4%）、②子どもを遊ばせた（17.9%）、③運動をした（17.8%）、④花や緑、自然を楽しんだ（13.1%）、⑤のんびり休んだ（10.6%） の順となっています。
欲しい公園	・欲しい公園は、①緑や花がきれいな公園（42.8%）、②子どもを安心して遊ばせられる公園（38.2%）、③ゆっくり休むことができる公園（35.5%）、④住まいの近くや街なかなどにある身近な公園（32.4%）、⑤スポーツや健康づくり、行事を楽しむことができる公園（27.3%：同率）、⑤緑豊かで自然と触れ合える公園（27.3%：同率） の順となっています。
公園に期待する役割	・公園に期待する役割は、①快適で美しいまちづくりの拠点（41.9%）、②運動、スポーツ、健康づくりの場（34.8%）、③子どもの遊び空間（32.0%）、④自然や生きものとのふれあいの場（30.9%）、⑤やすらぎやくつろぎの場（28.5%） の順となっています。

（アンケート調査：回答は複数選択式）

２　敷地分析

（１）豊公園の位置付け・役割

豊公園には、各種計画によって、様々な位置付けや役割が定められています。

そこで、上位計画や法律、関連施策に基づく豊公園の位置付けや求められる役割を、「長浜市の象徴」「観光拠点」「重要な景観」「歴史・文化施設」「公共の緑地」「イベント会場」「防災拠点」「文化財保全」という８項目で整理します。

■長浜市の象徴

豊公園は長浜市を代表する公園として位置付けられています。中心市街地と琵琶湖に隣接する立地特性と、長浜城跡地という歴史性を生かし、長浜市を象徴する公園としていくことが求められています。

■観光拠点

豊公園には、中心市街地との回遊性に配慮しながら、観光資源としての魅力を発揮することが求められています。また、老朽化した豊公荘は、中心市街地活性化のために必要な施設として、民営化を検討し更新することとされています。

■重要な景観

豊公園は全域が琵琶湖沿岸景観形成重点区域に指定されています。また、「日本さくら名所 100 選」や「日本の夕陽百選」にも選定されており、美しい景観を生かしていくことが求められています。

■歴史・文化施設

豊公園は歴史風土と一体となったみどりの景観を保全する公園として位置付けられています。また、長浜城跡に立地する都市公園として「日本の歴史公園 100 選」にも選定されており、多くの観光客が訪れる長浜城歴史博物館を有していることから、歴史・文化施設としての機能と役割が求められています。

■公共の緑地

豊公園は総合公園として、散歩や子どもの遊び、運動、花や緑を楽しむ憩いの場とされており、多くの市民や観光客に親しまれ、気軽に利用できる公園として、施設の充実が求められています。

さらに、市民活動や市民協働の場、子育てや教育の場といった多様な役割を果たす公共の緑地として、良好な都市環境に寄与する役割も求められています。

■イベント会場

豊公園では、第1期再整備事業としてテニスコート面の改修が行われ、第70回全日本ソフトテニス選手権大会が開催されたほか、第79 回国民体育大会（平成36年開催予定)のソフトテニス会場として検討されています。

その他、市、県、民間主催の各種イベントの会場としても多く利用されています。

■防災拠点

豊公園の自由広場は広域避難場所、臨時ヘリポートに位置付けされています。

また広域輸送拠点となっている長浜港、第2次緊急輸送道路となっている主要地方道大津能登川長浜線とも隣接しており、周辺地域と一体となった防災機能の発揮が求められています。

■文化財保全

豊公園の一部は周知の遺跡である長浜城遺跡に含まれており、その中には市指定史跡長浜城跡が存在します。再整備は、文化財の価値を損なわないように実施する必要があります。

（２）豊公園の現状における問題点

豊公園の問題点は以下の通りです。

豊公園の問題点

■豊公園の問題点

場所	問題点
利用者動線	・長浜駅西口方向に面する公園出入口が小さく、大勢の人が出入りできるようになっていません。 ・園路配置が入り組んでおり、公園内のどこにいるか把握しにくい状況です。 ・出入口や駐車場から主要な公園施設を行き来するための園路が分かりにくく、サインでの誘導も分かりにくい状況です。 ・幅の狭い園路や深い側溝に隣接する園路があり、バリアフリーに対応できていない箇所も多くあります。 ・散策やジョギング等で公園の外周を一周できるルートが確保されていません。 ・豊公荘の利用者の車両や搬入車両が公園内を通行し、公園利用者の動線と交錯しています。
公園施設	・整備から年月が経過しており、全般に施設の老朽化が進んでいます。
サイン	・サインのデザイン等に、統一感が感じられません。 ・公園内の案内や太閤井戸等の解説が不足しています。
サクラ・樹木	・樹木の老木化、密生等に伴う生育不良が生じています。 ・生育不良に伴い、樹木が衰弱し、枝の落下や倒木が生じています。 ・低木や生垣等により、全般に見通しが効かない区域が多くあります。 ・樹木も繁茂し、日中、夜間とも全体的に暗くなっています。 ・サクラの花見に利用されている区域以外は、樹種が混在しており、統一感が感じられません。
児童遊園	・利用者が多いにも関わらず、公園の端に立地しておりアクセスしにくい状況があります。
交通公園	・交通公園としての利用がなく、ほとんど利用されていません。 ・樹木が繁茂しており、特に日中でも暗い区域となっています。
日本庭園	・ポンプが撤去されており、池に水が流れていません。 ・空間的にも機能的にも周辺から分離された立地であり、ほとんど利用されていません。
サル舎	・猿を 3 匹飼育していますが、わざわざ訪れる利用者はあまり見られません。
豊公荘	・施設が老朽化しており、別途、対応が検討されています。
噴水広場	・イベント時等に、広場に接続する園路が狭く利用しにくい状況があります。
自由広場	・乾燥すると砂ぼこりが舞い、利用しにくい状況です。 ・臨時駐車場として車両が進入するため、広場に轍の凹凸があります。 ・一時的なレクリエーション等での利用はあるものの、広場としてはあまり利用されていません。 ・イベント時等に利用されるステージや十分な電源が常備されていません。
浜辺	・琵琶湖からの漂着ごみが打ち上げられています。 ・太閤井戸が水没し、周囲の洗堀も懸念されます。
駐車場 ※整備予定	・公園利用以外の駐車が多く見られます。 ・駐車場が満車になると、周辺道路への路上駐車を引き起こすことがあります。

これら問題点について、「公園の魅力に対する問題点」（[出入口・動線]［ゾーニング・エリア区分]［樹木の生育・公園施設]に細分）と「公園の安全性・快適性に対する問題点」という視点から分類・整理して、次ページ以降にまとめます。

■公園の魅力に対する問題点

【出入口・動線】

長浜駅西口方向からの出入口が小さい	長浜駅西口付近からの公園利用動線に対応できていません。
幹線園路が不明瞭	出入口や駐車場から主要な公園施設を行き来するための幹線園路が不明瞭で案内も不足しています。
周遊園路の不足	公園の外周を一周できる歩行者専用のルートがありません。

長浜駅西口方向からの出入口が小さい

長浜駅西口方向から長浜城歴史博物館に向かう園路が狭く、未舗装

【ゾーニング・エリア区分】

利用者の少ないエリア	交通公園、日本庭園などのエリアは、利用者が少なく、不法投棄等も懸念されます。
統一感の不足	案内の表示等、公園全体の統一感が不足しています。

利用者が少ないエリア（交通公園）

利用者が少ないエリア（日本庭園）

【樹木の生育・公園施設】

病害と樹形の悪化	サクラをはじめとする樹木の病害（テングス病等）や生育不良によって樹形の悪化等が懸念されます。
施設の老朽化	管理事務所、トイレ、噴水、園路、あずまや等、公園施設の老朽化が進んでいます。

サクラが密生しており、病害や生育不良による樹形の悪化が懸念される

施設の老朽化（例：園路）

■公園の安全性・快適性に対する問題点

バリアフリーに未対応	管理事務所へのアクセスをはじめ、階段・段差・未舗装の園路などバリアフリーに対応していない所があります。
歩車動線の交錯、混在	歩行者と園内を通行する自転車・搬入車両等の動線が交錯し、歩車動線が区分されていません。
樹木による視線の遮蔽	公園全域に樹木が繁茂し、公園内外の見通しが確保できず、防犯上問題があります。
駐車場の目的外利用	長浜駅利用の通勤者等による駐車場の利用があり、公園利用者の駐車の支障となっています。
園路と動線の不一致	快適に利用できる補助的園路の整備が不十分な状況です。
園内案内の不足	公園内の案内や石碑・歌碑等の解説が不足しています。
枝の落下や倒木	生育不良によって樹木が衰弱することで、枝の落下や倒木事故が起こりやすくなります。

バリアフリーに未対応（例：管理事務所）

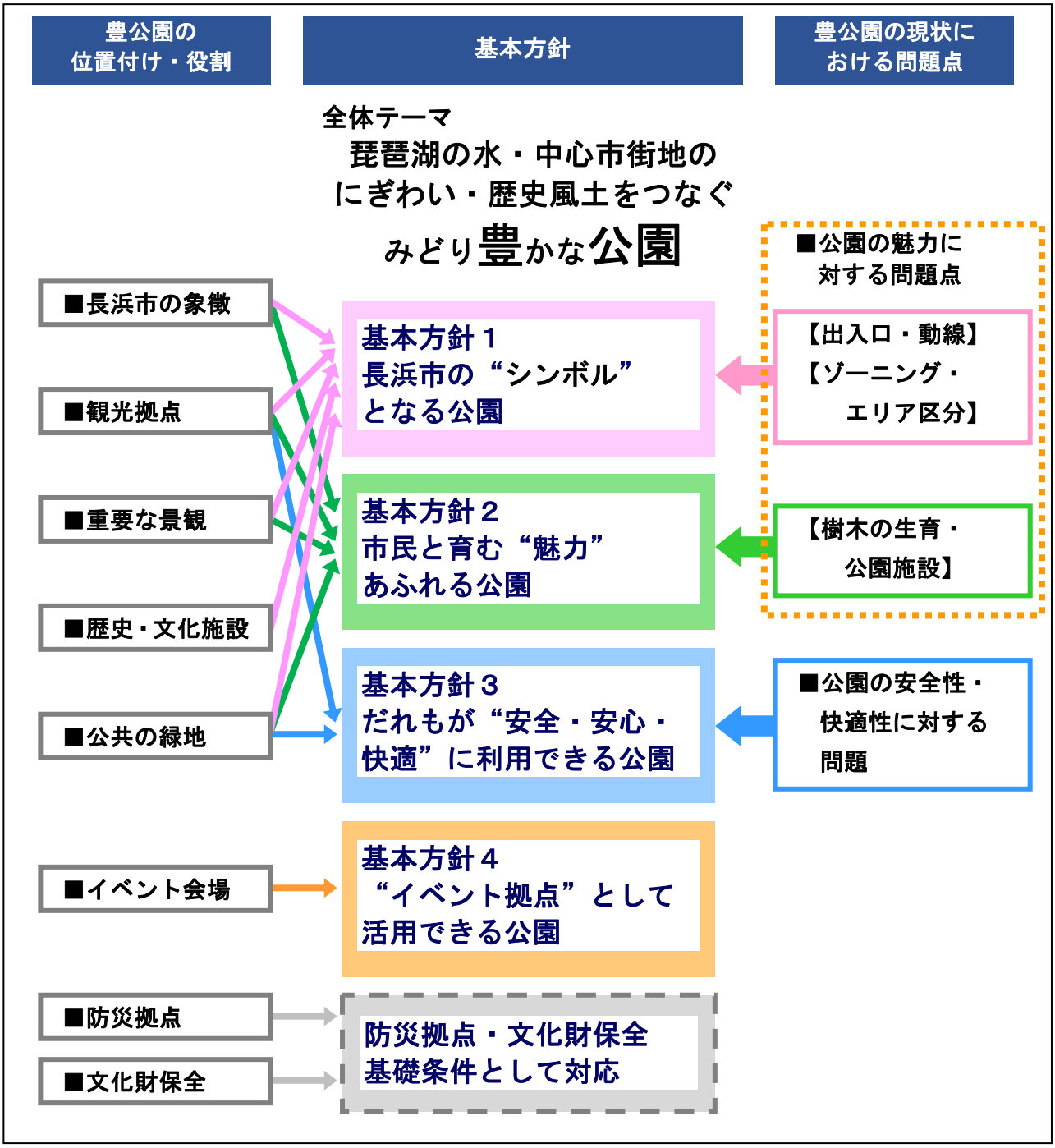
樹木が繁茂し、公園内外の見通しが悪い

生育不良によって樹木が衰え倒木も発生している

3　基本方針

（１）基本方針の設定

基本方針として、豊公園の現況把握及び分析により整理した情報を踏まえて、再整備のコンセプトとなる全体テーマと、実現すべき再整備の方向性を定めます。



全体テーマ

琵琶湖の水・中心市街地のにぎわい・歴史風土をつなぐ
みどり豊かな公園

・サクラやウメの名所として、みどり豊かな公園を育んでいきます。
・琵琶湖と中心市街地の両方に隣接しているという立地上のメリットを最大限に活用して、美しい景観と街のにぎわいをつなぐ公園とします。
・長浜城跡にある公園として、長浜城歴史博物館や太閤井戸をはじめとする歴史風土を守り、未来へ向けて生かしていきます。
・総合公園として、幅広い市民ニーズに応えていきます。

基本方針１　長浜市の“シンボル”となる公園

・歴史風土と一体となった緑の景観を形成することで、市民に愛され、中心市街地活性化に貢献し長浜市の“シンボル”となる公園とする
・出入口と動線を明確化して、公園全体を見据えたゾーニングやエリア区分を設定する

基本方針２　市民と育む“魅力”あふれる公園

・市民の参加と協働の取組を深めて、市民とともに育てていく“魅力”あふれる公園とする
・公園施設を適正に管理・更新し、多くの市民が愛着を持っているウメ・サクラ・フジ等の樹木の健全な生育を促す

基本方針３　だれもが“安全・安心・快適”に利用できる公園

・バリアフリー対応、歩車動線の分離、見通しの確保など、誰もが安全に安心して活動できる公共の緑地としての基盤を整備し、市民や観光客が快適に利用できる公園とする
・全体の利便性に配慮した駐車場の運営を行う

基本方針４　“イベント拠点”として活用できる公園

・テニスを中心とする競技スポーツ会場や、県、市、民間が主催する各種イベントに対応できるような施設整備を進め、中心市街地において“イベント拠点”として活用できる公園とする

防災拠点・文化財保全：基礎条件として対応

4　動線・ゾーニング

（１）動線計画

現在の園路網を整理して、分かりやすい動線とすることを目的とします。その際、可能な限り既存の園路を活用します。また、原則として歩行者と車両の動線を分離します。

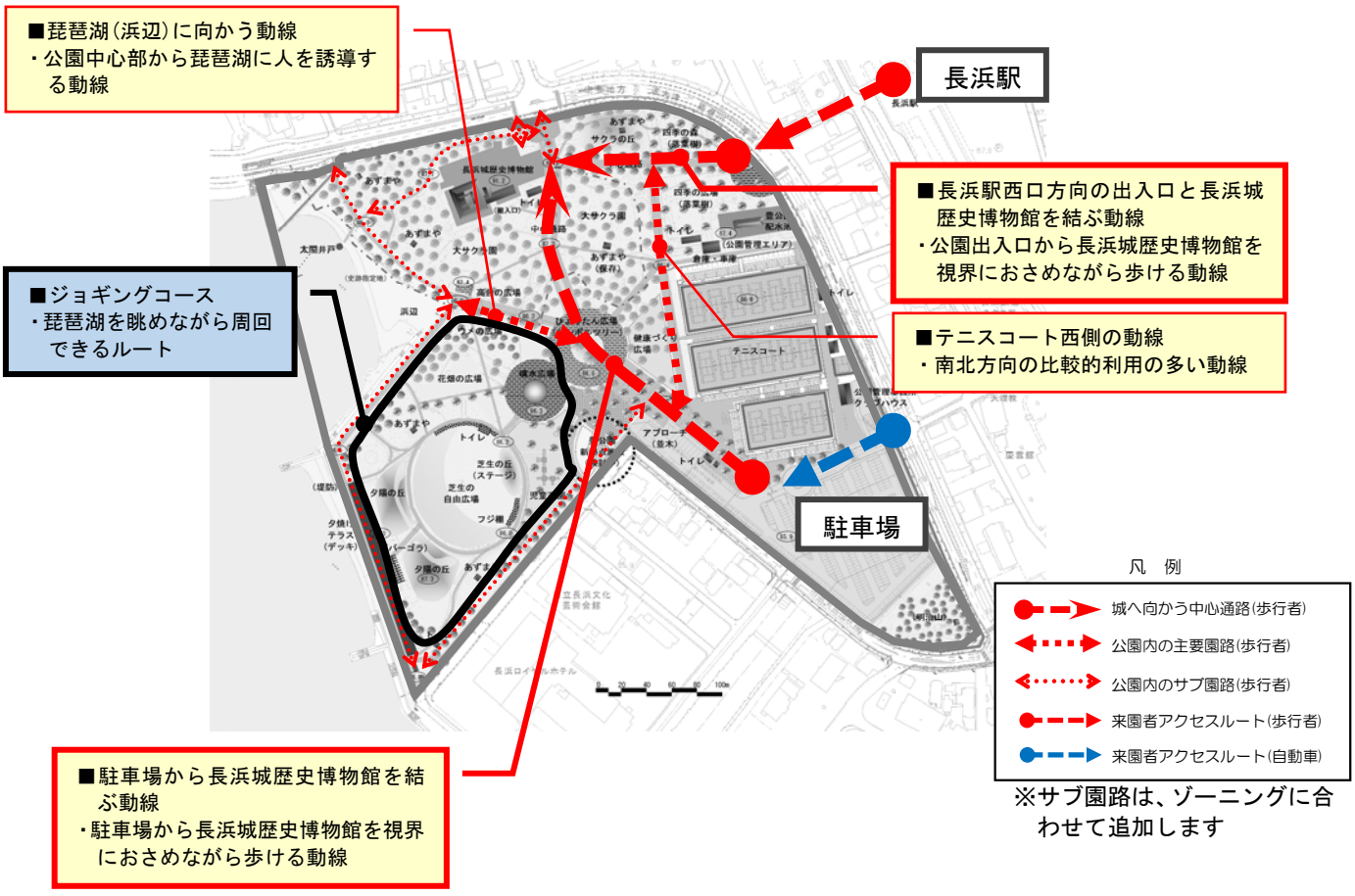
豊公園内で果たすべき役割と重要度に応じて、次の 3 種類の動線を配置します。

中心通路	・最も重要な園路を、中心通路として設定します。
主要園路	・中心通路の次に利用者数の多い動線を主要園路とし、補助的な動線をサブ園路として設定します。
サブ園路	

利用状況から、駐車場から公園中心部を通って、長浜城歴史博物館に向かう動線が重要であることが分かりました。また、中心市街地に近い長浜駅西口方向の出入口と長浜城歴史博物館を結ぶ動線は、今後、駅から公園内に人を誘導する動線になると想定しています。そこで、この 2 つの動線を公園の「中心通路」として配置します。

次に、公園利用の起点となる公園中心付近から公園内の各地に向かって動線を配置します。特に琵琶湖の浜辺に向かう動線と、比較的通行が多いテニスコート西側の動線を「主要園路」とします。それ以外の動線は、湖岸付近の外周園路等を含めて「サブ園路」として配置します。

動線計画の一部として、中心通路と分離したルートを、琵琶湖を眺めながら周回できるジョギングコース（1 周約 750m）に設定します。



（２）ゾーニング計画

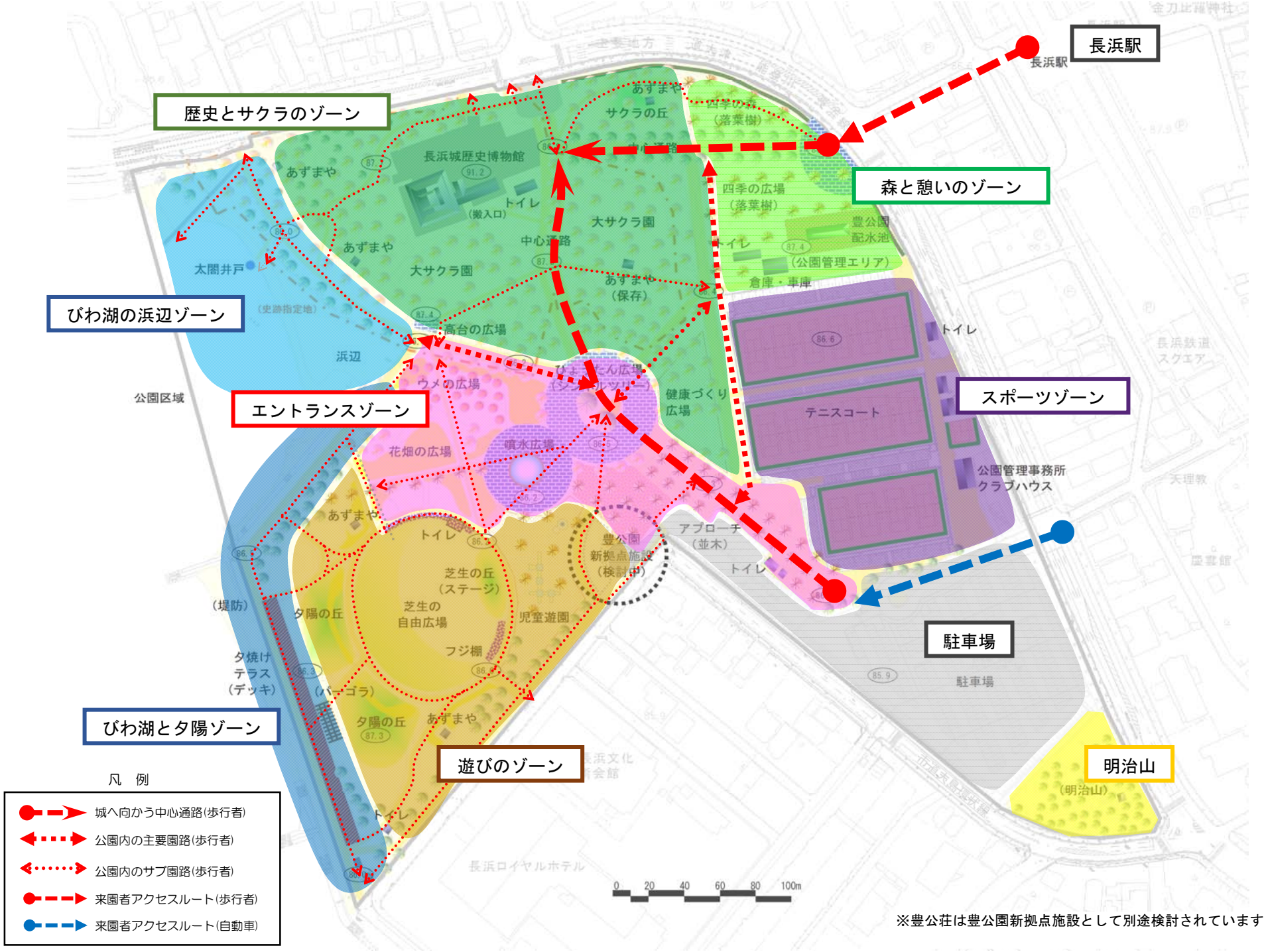
■各ゾーンの目的

動線計画をもとに、豊公園に求められる機能を公園各地に配置します。類似する機能を集約しながら、ゾーン間のつながりにも配慮します。

具体的には、公園利用の起点となる公園中央部に「エントランスゾーン」を配置し、その周囲に特徴のある 6 つのゾーンを配置します。

各ゾーンの目的

ゾーン名	ゾーンの目的
エントランスゾーン	・公園の動線が集まる部分に広場を設けて、花や噴水などで印象を高め、賑わいと開放感を感じられるようにします。
歴史とサクラのゾーン	・サクラの名所として一層の充実を図り、魅力を高めます。長浜城歴史博物館を中心に歴史を感じながら散策や健康づくりを楽しめる場所とします。
びわ湖の浜辺ゾーン	・浜辺を保全し、琵琶湖と水辺の景観を満喫できる場所とします。浜辺の管理では市民との協働を育むようにします。
びわ湖と夕陽ゾーン	・琵琶湖と夕陽を楽しむゾーンとして、テラスやベンチ等を配置して琵琶湖を眺める場所とします。
遊びのゾーン	・広々とした芝生の広場や、児童遊園等、多くの人がレクリエーションを楽しむ場所とします。また、集客イベントに対応できる電気等のインフラ整備を行います。
森と憩いのゾーン	・長浜駅西口から、長浜城歴史博物館までの並木道と、紅葉等で季節を感じられる憩いの空間をつくります。また、市民と協働で植樹や樹木管理などを行う場所とします。
スポーツゾーン	・競技大会に対応したテニスコートを備えます。また、公園管理事務所を配置し公園全体を管理する場所とします。



※豊公荘は豊公園新拠点施設として別途検討されています

■基本方針を受けたゾーン内容の具体化

本公園の基本方針の実現に必要な機能及び活動内容を、ゾーンごとに整理します。
これらの必要機能を確保するために必要な施設計画を、次章で行います。

基本方針の実現に必要な機能・活動内容（ゾーン別）

ゾーン名	基本方針１. 長浜市の “シンボル” となる公園	基本方針２ 市民と育む “魅力” あふれる公園	基本方針３ だれもが “安全・安心・ 快適”に 利用できる公園	基本方針４ “イベント拠点” として 活用できる公園
エントランス ゾーン	豊臣秀吉公の馬印をかたどったひょうたん広場	市民と育てる美しい花畑づくり	公園内動線の結節点となる広場と分かりやすい園路整備	ひょうたん広場をイベントで活用
歴史とサクラ のゾーン	天守閣を模した展望台・休憩所 日本さくら名所100選のサクラ	植樹イベント等によるサクラ植樹	長浜城歴史博物館まで迷わずに行ける中心通路の整備 樹木の整理による見通しの確保	サクラの花見（イベント）で活用
びわ湖の浜辺 ゾーン	貴重な自然の浜辺	浜辺を美化する市民活動	太閤井戸の魅力を広く利用者に伝えるサイン整備と浜辺の保全	市民等による清掃イベントでの活用
びわ湖と夕陽 ゾーン	日本の夕陽百選の視点場	湖岸を美化する市民活動	深い側溝を蓋で覆ってテラスとして活用	夕陽をテーマとするイベントで活用
遊びのゾーン	琵琶湖に面した広々とした芝生広場	芝生の広場での様々なイベント集客	砂ぼこりの舞わない芝生の広場整備 公園外周を琵琶湖まで行ける園路(歩行者専用通路)の整備	芝生広場をイベントで活用
森と憩いの ゾーン	湖北の四季を感じる落葉広葉樹の森	市民と育む森づくり	長浜駅から迷わずに長浜城歴史博物館や、ひょうたん広場に行ける中心通路と出入口の整備 樹木の整理による見通しの確保	自然体験活動などのイベントで活用
スポーツ ゾーン	全国レベルの大会が開催されるテニスコート	市を挙げてのスポーツイベントの開催	スポーツ利用者と一般利用者の動線・トイレの分離	スポーツ大会（イベント）の会場として活用
備　考			主要な園路のバリアフリー化と歩車分離（全ゾーン）	